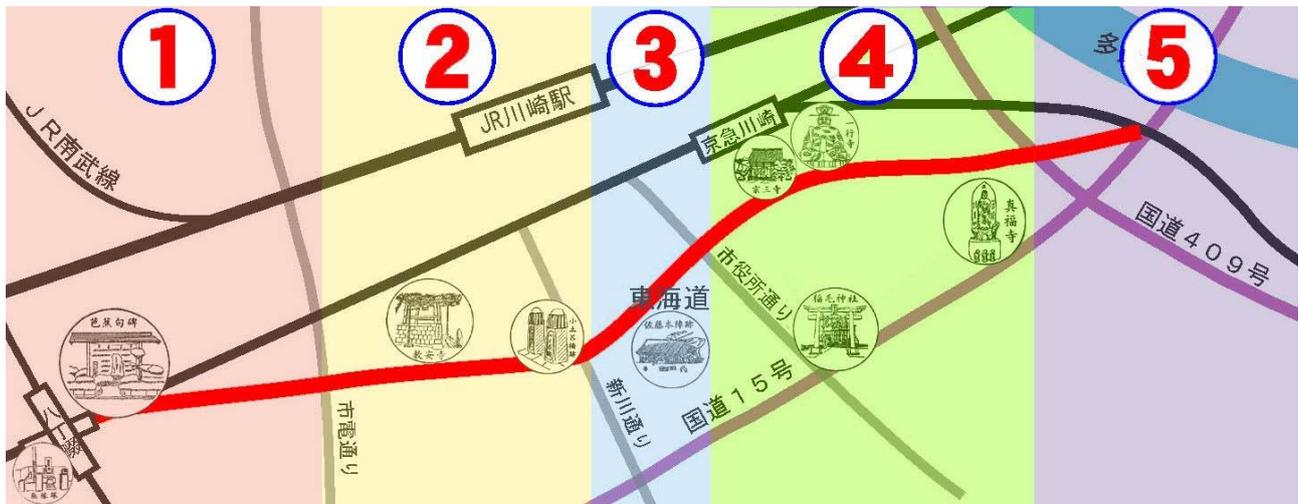


# 4. 5つのゾーン分け

## 街道筋の5つのゾーン分けと、整備の方向性・イメージ

街道筋の川崎宿の全エリアをひとくりに捉え、一つの物差しだけで一律にまちづくりを展開していくことは難しく、非現実的でもあります。

そこで、街道筋を以下のような5つのゾーンに分け、各ゾーンのもつ資源、特性などを整理し、ゾーンごとのイメージや整備の方向性を考えました。各ゾーンには、それぞれゆかりの深い人物や事物の名前を付け、ゾーンの長と親しみやすさをアピールしていきます。



### ① 芭蕉ゾーン（八丁驛附近～市電通り）

□主な旧町名：見染、下並木、上並木

□主な資源：芭蕉の句碑、無縁塚、カリン並木

□ゾーンの特徴：

- ・江戸時代にこの付近は八丁驛と呼ばれ、街道筋には、南側には松8本・杉166本、西側には松20本、榎7本が植えられていた。（寛政年間・石井家文書）
- ・大正時代になるとこの並木にちなんで、「上並木」「下並木」と呼ばれるようになり、「下並木」の地名は現在も残っている。
- ・現在の街道筋には行政によって植えられた、カリンの並木が毎秋たわわな実をつけている。
- ・芭蕉が元禄7(1694)年に江戸を発ち故郷の伊賀へ向かう際に、川崎宿のはずれで弟子達との別れを惜しんで詠んだ句「麦の穂をたよりにつかむ別れかな」を刻んだ芭蕉句碑は、芭蕉がその場所で詠んだ句を刻んだ句碑として文化的価値が高い。芭蕉はその年の秋、大阪で帰らぬ人となった。
- ・句碑を「守る会」があり、「無縁塚」は地元が清掃、管理するなど、住民の参加意識意欲が強い地域である。

□取組みの方向：

- ・「芭蕉の句碑」を中心に、芭蕉を前面に出したアピールをする。

- ・ 全国の芭蕉ファンが訪れるような名所を目指す。
- ・ 今後も地元住民の参加を重視する地域とする。
- ・ 川崎宿案内のスタート地点、ガイド拠点としての整備を進める。

## ② 坂本九さんゾーン（市電通り～新川通り）

□主な旧町名：小土呂

□主な資源：小土呂橋跡、教安寺、ラ チッタデッラ、川崎宿の京口

□ゾーンの特徴：

- ・ 坂本九さんの生まれた南町に近いゾーン。
- ・ 現在の新川通りは、かつての新川堀用水。慶安 3(1650)年に周辺の水田耕地の収入の安定化をはかるために掘られた。
- ・ 新川堀用水と東海道が交わる地点に架けられていたのが、小土呂橋であり、洒落たデザインの擬宝珠が交差点脇に保存されている。
- ・ 江戸時代につくられた梵鐘や、徳本上人の独特な筆跡による「六字名号碑」などが残されている教安寺がある。
- ・ 街道からすぐそばに、12 の映画館や約 50 の飲食店やショップが建ち並ぶ、総合的アミューズメント街区、「ラ チッタデッラ」があり、イタリア風のまちなみが整備されている。ハロウインの仮装行列など若者が集まるイベントも多い。

□取組みの方向：

- ・ 地元商業施設等との連携をはかり、坂本九を前面に出したエンターテインメントや、若者をターゲットとした新しい宿場文化を創造、アピールしていく。

## ③ 惣之助ゾーン（新川通り～市役所通り）

□主な旧町名：小土呂、砂子

□主な資源：佐藤本陣跡(佐藤惣之助生家)、旧橘樹郡役所跡、大徳寺、勸行院善光寺関東別院

□ゾーンの特徴

- ・ 上の本陣と呼ばれた佐藤本陣があった地域。幕末には、14 代将軍である徳川家茂が京に上る際に宿泊した。
- ・ 「赤城の子守唄」「人生劇場」などの歌謡曲や「六甲おろし」を作詞した詩人佐藤惣之助は、明治 23 (1890)年に本陣職を務めてきた佐藤家に生まれた。惣之助は川崎の郷土を愛した詩人といわれている。
- ・ 川崎宿一の茶屋として「奈良茶飯」が有名だった万年屋(屋号・万年)の当主「半七」の墓のある大徳寺がある。
- ・ 平成 6 年度から東海道沿いの商店街がモール化され、にぎわいある地域である。

□取組みの方向：

- ・ モール化された商店街のゾーンなので、商店街の活性化を中心にまちづくりを進める。
- ・ 商店と連携した川崎宿名物のアピールや看板等を活用した景観づくりに力を入れる。

#### ④ 休愚ゾーン（市役所通り～国道409号）

□主な旧町名：砂子、新宿

□主な資源：田中本陣跡、問屋場跡、砂子の里資料館、宗三寺、一行寺、稲毛神社(川崎山王社)、稲毛公園

□ゾーンの特徴：

- ・ 問屋場という宿駅機能を司る役場があった、宿場時代の中心地区であり、現在もにぎやかなゾーンである。
- ・ 稲毛神社は地元の人たちから「山王さま」と呼ばれており、川崎宿の鎮守として古くから多くの信仰を集めてきた。例祭である「川崎山王まつり」は「東の祇園」と称されるほどの賑わいを見せた街道名物だった。境内には川崎宿にまつわる史跡も多い。
- ・ 田中本陣からは、名主から幕府の代官にまで出世した田中休愚がでていいる。休愚は、六郷川の渡船権を川崎宿にもたらし、宿場の財政を立て直すなど川崎宿の発展に大きな貢献をしており、歴史の教科書にも登場する、川崎が誇る傑出した人物である。
- ・ 閻魔寺とも呼ばれた一行寺、遊女の供養塔がある宗三寺など、寺社や史跡にも恵まれたゾーンである。

□取組みの方向：

- ・ 「よみがえれ川崎宿」における中心的なゾーンとして位置付け、イベント等の地域活性化の取組みを行っていく。
- ・ 多くの寺社や史跡の歴史や文化をアピールしていく。

#### ⑤ 万年ゾーン（国道409号～六郷橋）

□主な旧町名：新宿、久根崎

□主な資源：万年屋跡、六郷の渡し跡、川崎稲荷社、川崎宿の江戸口、大師道入口

□ゾーンの特徴：

- ・ 六郷の渡しは、その渡船賃の収入から川崎宿の財政を潤した。宿場の江戸時代庶民の霊場として栄えた川崎大師への参詣ルート、大師道への入口でもあった。
- ・ 六郷川(多摩川)を渡って川崎宿に入ってすぐの江戸口にあった万年屋(屋号・万年)は、奈良茶飯が名物の宿内一の茶屋であり、江戸後期には大名が昼飯に立ち寄りたり、米国駐日総領事ハリスも宿泊するほど栄えた。この「万年屋」の他、「新田屋」「会津屋」などの大きな茶屋があった大師道の入口付近は万年横丁とも呼ばれた。
- ・ 川崎稲荷社は、8代将軍吉宗が紀州から江戸城入りする際に休息したと伝えられており、毎年2月の第2日曜に地元の町会による祭りがあり、参拝者にはお餅が配られている。

□取組みの方向：

- ・ 六郷の渡し跡、万年屋跡があることを活かし、江戸時代の旅文化や食文化を前面に出したアピールをする。